創立30周年記念シンポジウム

創立30周年記念シンポジウムの模様を掲載しました。

　本年で創立30周年を迎えた宗教法学会は、2010年11月6日の第61回宗教法学会において、それを記念するシンポジウムを開催した。
　テーマは、昨年から施行された裁判員制度と信教の自由をめぐる問題で、会内外の多数の参加を得て、意欲的な報告と活発な議論が展開された。をテーマとしたものであった。

　その概要と当日配布されたレジュメ・資料等をPDFファイルにて掲載しました。

1. 宗教法学会シンポジウム概況
2. 進行次第.pdf

第1部　問題の提起

3. 「裁判員就任義務は信教の自由の保障に反するか」田近　肇（岡山大学）
4. 「裁判員制度とカトリック教会」岩本潤一（カトリック中央協議会）

5-1. 「仏教者と裁判員制度－浄土真宗本願寺派からの視点－」藤丸智雄（本願寺教学伝道研究所）
5-2. 資料全体（藤丸）
5-3. 新アジア仏教史（藤丸）

第2部　諸外国の状況とわが国の対応

6. . 「陪審制と信教の自由」高畑英一郎（日本大学）
7. . 「参審制と信教の自由」片桐直人（近畿大学）
8. . 「わが国の現状と課題」四宮　啓（弁護士）

会場の様子:

[album: http://religiouslaw.org/wp-content/plugins/dm-albums/dm-albums.php?currdir=/wp-content/uploads/dm-albums/symposium2010 /]